



## 株式会社タカミヤ IRセミナー

株式会社タカミヤ  
〒530-0011  
大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB27階

皆様、本日はお集まりいただきまして、ありがとうございます。  
株式会社タカミヤ 代表取締役 会長兼社長の高宮でございます。

それでは、当社のIRセミナーを始めさせていただきます。

## アジェンダ

- ・企業概要
- ・事業内容
- ・業績ハイライト
- ・株式情報

本日のアジェンダですが、ご覧の通りでございます。  
企業概要、事業内容、業績推移とご説明し、最後に株式情報となります。

## 企業概要

### 基本情報

会社名	株式会社タカミヤ
設立	1969年6月19日
代表者	高宮 一雅（代表取締役会長 兼 社長）
本社所在地	大阪府大阪市北区大深町3-1 グランフロント大阪 タワーB 27階
従業員数	連結：1,355名 単体：781名（2024年12月末時点）
連結子会社	11社（国内8社・海外3社）
資本金	10億5,214万円
上場市場	東京証券取引所 プライム市場（証券コード：2445）



それでは企業概要からご説明いたします。

当社は、1969年に大阪の摂津市で創業いたしました。

現在は、大阪梅田のグランフロント大阪に本社を構えております。

4月より、東京の日本橋にも本社を設置し、東京と大阪の両方に本社を構えます。

グループ全体で、従業員がおよそ1300名おり、

連結子会社は国内に8社、海外に3社の、計11社ございます。

## 企業概要

### 社是



### 経営理念

#### 一、己を愛する

私達はこの世に生を受け、己の人生と云うものがある訳です。当然自分自身今日より明日へと高めることが必要であり、一期一会の人生を己に言い聞かせ、甘える事なくおごる事なく生きていくことこそ、己を愛することである。

#### 一、人を愛する

私達の父母、兄弟姉妹等、すべての家族に対する思いやりは、愛の原点であり、友人に、隣人に、そして世界の人々に、この思いやりと互いが幸福にと願う心、その思いやりが人を愛することである。

#### 一、会社を愛する

会社は生まれながらにして地域社会の一員であり、私達を育ててくれた地域社会に、国家に、そして世界に感謝し、それぞれに私達は力の限り奉仕しよう。人の集まる場所必ず集団が自然発生する。その一つに企業集団があり、その企業を通じて地域社会に、国家に、世界に奉仕することがすなわち会社を愛することである。

こちらは社是と経営理念でございます。

当社の社是は「愛」です。

経営理念は「己を愛する」、「人を愛する」、「会社を愛する」です。

己を愛するという自分への自己開発意欲。

家族や会社の仲間への思いやり。

そこが原点となり、会社を通じて社会に貢献するという思い。

私達はそれを、企業成長の原動力にしたいと考えました。

## 事業内容

Takamiya Platform  DX  
Permanent Partner Relationship, realized with Digital Transformation

建設業界の課題へソリューションを提供し続ける  
プラットフォーム企業

それでは、当社の事業についてご説明いたします。

当社は、建設業界が抱える課題へソリューションを提供するプラットフォーム企業です。

詳細につきましては、これより、ご説明いたします。

# 沿革

時代ごとに顕在化する建設業界の課題をいち早くキャッチし、ソリューションを提供

- 1969 ○ **創業**  
工事現場で利用される丸太などの木材の販売
- 1970 ○ **限りある資源を有効活用**  
仮設機材レンタルへビジネスモデル転換
- 2010 ○ **仮設機材に付加価値を**  
ホリー(株)をM&Aし、レンタル会社兼メーカーへ
- 2013 ○ **半世紀変化しなかった足場に変革を**  
次世代足場「Iqシステム」開発
- 2023 ○ **アナログな業界の生産性を改善**  
Webオーダーシステム「OPERA」開発
- 2024 ○ **社会インフラの維持のため、業界課題を研究**  
R&D拠点 Takamiya Lab. West グランドオープン



こちらが当社の歴史ですが、当社は、1969年に創業し、工事現場で使用される木材の販売から事業をスタートしましたが、

翌年に万博が開催されたことが転機となり、事業を転換いたしました。

大阪エリアは万博によって建設需要が活況となり、全国各地から、多くの建設会社が集まりました。

その際、工事に必要な足場を現地で調達し、現地で処分するという動きが見られました。

大量の足場を持って帰るには、コストが掛かるためです。

そこで当社は使用後の足場を整備して、再利用するレンタルビジネスをはじめました。

その後はレンタルビジネスを中心に全国に事業を拡大していきました。

しかし、この足場のレンタルビジネスには多くの障害があり、事業拡大は簡単ではありません。

足場というのは、多くの会社が保有しており、それらに大差がないためです。

よって、「どこから借りても、変わらない」こんな状況が生まれるのです。

足場を供給する会社は価格を下げ、無償サービスで差別化を図ります。

しかし、価格競争が続き、足場供給会社のリソースはどんどん圧迫されてしまいました。

そこで、当社は状況を変える為、2010年に足場のメーカーを買収したことを皮切に、事業の転

換を始めました。

## 事業環境

### 1.現在

仮設業界のリソース不足により、仮設機材の供給が停滞し、社会インフラの維持が困難に

### 2.課題

- ① 人材不足      ② 労働者の高齢化
- ③ 労働生産性   ④ 労働災害

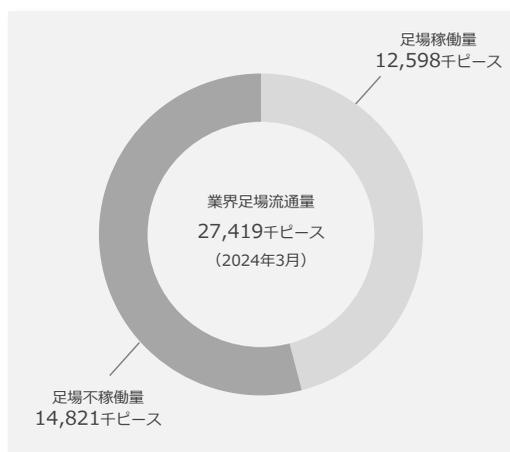
### 3.ソリューション

- ・ハード  
施工性・作業性・安全性に優れた業界課題解決に寄与する仮設機材
- ・ソフト  
DXによる高収益化・省人化・安全性の高い業界課題解決に寄与するサービス

### 4.表現

停滞のない仮設機材の供給による社会インフラの維持

建設投資は増加し、需要は顕著だが、整備遅れなどにより仮設機材の供給がひっ迫



足場稼働率 45.9% (足場稼働量/足場総量)

稼働していない要因の1つは再利用に向けた整備リソースの不足。整備を行う人材が不足している中、整備作業の自動化や機械化の動きが遅く、リソース不足の状況が深刻化すれば、仮設機材の供給は停滞し、各種の社会インフラの整備が停滞。

参照：国土交通省 建設関連業等の動態統計調査  
『建設機械器具レンタル業等の動態調査結果』

先程、リソースが圧迫されているとお伝えしましたが、  
現在、足場の整備が追い付かず、供給がひっ迫しつつあります。  
これは業界における足場の総量です。

昨年3月末における足場の稼働率は45.9%と、全体の内、およそ、半分は利用されていない状況です。

これは人手が不足し、足場の整備作業が追い付いていないことが原因として挙げられます。

足場の整備が追い付かない状況が続けば、必要なだけの量を供給できなくなってしまいます。  
そして、それはつまり「工事ができなくなる」ということです。

「新たにビルを建てる」「新たに交通インフラを整備する」「老朽化した道路や建物を補修する。」

これらが全てストップしてしまうのです。

つまり、足場の供給が止まれば、皆さんが暮らす社会を維持することが困難になるということです。

## 事業環境

### 1. 現在

仮設業界のリソース不足により、仮設機材の供給が停滞し、社会インフラの維持が困難に

### 2. 課題

- ① 人材不足
- ② 労働者の高齢化
- ③ 労働生産性
- ④ 労働災害

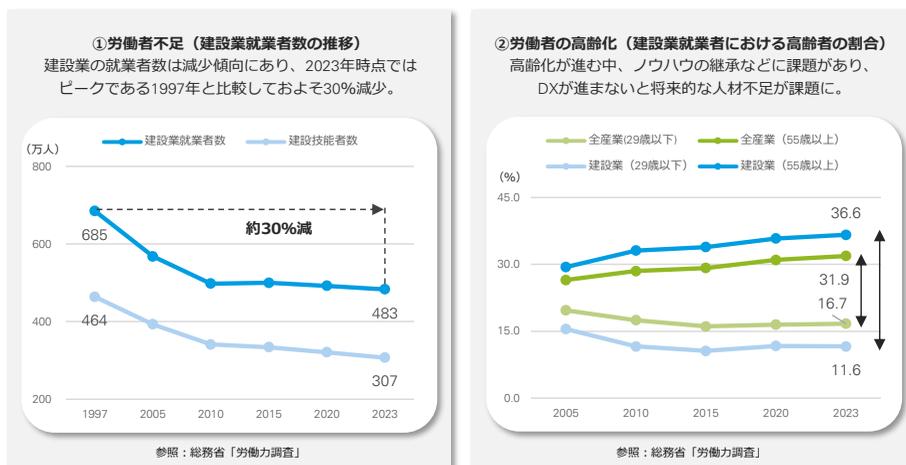
### 3. ソリューション

- ・ハード  
施工性・作業性・安全性に優れた業界課題解決に寄与する仮設機材
- ・ソフト  
DXによる高収益化・省人化・安全性の高い業界課題解決に寄与するサービス

### 4. 表現

停滞のない仮設機材の供給による社会インフラの維持

## 2024年問題により、労働者不足が深刻化し、高齢化により更なる加速が見込まれる



しかし、建設業の課題は、これだけにとどまりません、「建設業の2024年問題」と言われておりますが、時間外労働の上限が規制されたことで、人手不足の深刻化は加速し、労働者の高齢化も進んでいることで、将来に渡って人手不足の状況が続くことが予想されます。

労働者はピークと比較しておよそ30%減、他の産業と比較して高齢者の割合が高くなっています。

## 事業環境

### 1. 現在

仮設業界のリソース不足により、仮設機材の供給が停滞し、社会インフラの維持が困難に

### 2. 課題

- ① 人材不足
- ② 労働者の高齢化
- ③ 労働生産性
- ④ 労働災害

### 3. ソリューション

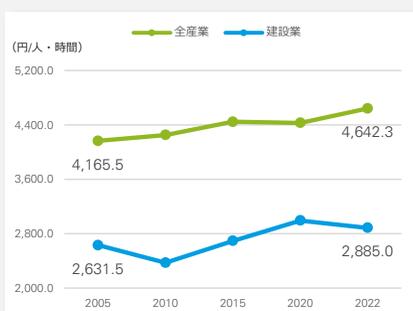
- ・ハード  
施工性・作業性・安全性に優れた業界課題解決に寄与する仮設機材
- ・ソフト  
DXによる高収益化・省人化・安全性の高い業界課題解決に寄与するサービス

### 4. 表現

停滞のない仮設機材の供給による社会インフラの維持

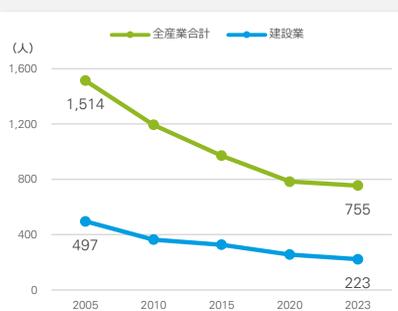
### 労働集約型の建設業は他の産業と比較して、労働生産性が低く、労働災害の数も多い

③ 労働生産性（付加価値労働生産性の推移）  
実質粗付加価値額(2015年価格)÷(就業者数×年間総労働時間数)  
労働集約型であり、DXが進んでいない現状から建設業界は他の産業と比較して労働生産性が低い。



参照：内閣府「国民経済計算」、総務省「労働力調査」、厚生労働省「毎月勤労統計調査」

④ 労働災害（労働災害発生状況の推移）  
屋外や高所での作業が多い建設業界は、労働災害が他の産業に比べて多く、安全性の向上が必須。



参照：厚生労働省「労働災害発生状況」

さらに、建設業における労働生産性の低さも課題の1つです。労働集約型、つまり、人手に頼るビジネスを続けてきたことで、デジタル化やDXの進行が他の産業より遅れているためです。

安全第一と言われる建設業界ですが、労働災害の数は他の産業と比較して多く、改善されてはいますが、依然として多いのが現状です。

このように、山積みとなった課題を解決しなければ、建設業を持続させていく、つまり社会を維持することができません。

そこで、当社はこの現状を打破するために、事業を大きく転換させたのです。

## 事業環境

### 1.現在

仮設業界のリソース不足により、仮設機材の供給が停滞し、社会インフラの維持が困難に

### 2.課題

- ① 人材不足      ② 労働者の高齢化
- ③ 労働生産性   ④ 労働災害

### 3.ソリューション

- ・ハード  
施工性・作業性・安全性に優れた業界課題解決に寄与する仮設機材
- ・ソフト  
DXによる高収益化・省人化・安全性の高い業界課題解決に寄与するサービス

### 4.表現

停滞のない仮設機材の供給による社会インフラの維持

付加価値の高いハードとソフトを組み合わせることで、顧客へソリューションを提供



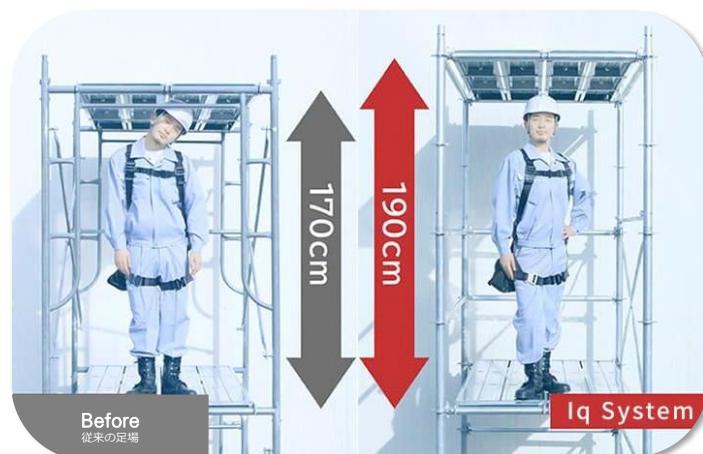
それが、プラットフォームという答えです。

プラットフォームとは、これまでの足場の供給にとどまらず、足場と共に、付加価値の高いソリューションを提供することで、顧客や業界の課題を解決するための仕組みです。

生産性の改善、安全性の向上、人手への依存を脱却するサービスの提供によって、社会を支えます。

## Takamiya Solution

ソリューションの中心となる次世代規格の足場、作業スペースを拡大したことで、作業者の負担を低減し、労働生産性を改善



### Iq System

タカミヤの次世代規格のシステム足場

#### 作業性の改善

階高 **190cm**

従来の足場から階高が20cm高くなったことで、足場上の作業性が向上し、労働生産性が改善。

#### 施工性の改善

枠組足場の場合  
**10段**  
(170×10=1,700)



Iqシステムの場合  
**9段**  
(190×9=1,710)

従来の足場であれば、組上が10段必要な場合、Iqシステムは9段で済むことで、必要な部材数および組上工数の削減により、施工労力を削減。

こちらが、プラットフォームの中心を担う存在として開発された、当社の足場、次世代足場Iqシステムです。

Iqシステムは多くの面で、従来の足場より優れております。

これまで、業界に普及していた足場は、作業スペースの高さが170cmでした。

昔は、170cmでも問題なく作業出来ましたが、現在は平均身長が伸びたことに加え、ヘルメットの着用が義務付けられていることもあり、

170cmの高さでは、首や腰を屈めながら作業しなければなりません。

窮屈な体制での作業は生産性を下げるだけでなく、頭をぶつけるなど、労働災害にも繋がってしまいます。

従来より、利用されていた足場は時代に合わなくなってしまったのです。

対照的な存在、時代に合う足場として挙げられるのが、当社のIqシステムです。

従来の足場の高さよりも20cm高い、190cmを採用としたことで、のびのびと作業ができるようになりました。

作業者の負担解消はもちろん、労働災害の撲滅にも貢献します。

一階当たりの高さが高くなったことで、組み上げる段数が少なくなり、省力化を実現しています。

## Takamiya Solution

作業床の隙間を失くしたことで、労働災害を減少、軽量化と省スペース化により、運搬効率も大幅に改善

### 安全性の向上



作業床の隙間を失くし、工具の落下及び踏みによる作業者の転倒を防止  
安全性が飛躍的に向上したため、労働災害の減少に寄与

### 運搬効率の向上



従来の足場と比較して、部材の軽量化と保管面積の省スペース化により、  
運搬効率が向上し、運送に必要な車両がおよそ30%減少

Iqシステムと従来の足場が異なる点が他にもございます。

床の隙間を失くしたことで、つまづきによる転倒や落下は無くなり、作業者の安全を確保、隙間から工具を落としてしまい、落下物が歩行者にあたる事故も無くなります。

部材の軽量化と、保管面積の省スペース化を実現したことで、  
運送車両の台数を削減することもできます。

生産性・安全性が大幅に改善し、従来の足場の利用よりも、  
必要となるリソースを大幅に削減することができるのが、Iqシステムです。  
この足場を中心に、ソリューションを拡充させています。

# Takamiya Solution

業界課題解決に寄与する仮設機材を、あらゆる建設工事現場に提供

労働者不足、労働生産性の改善に大きく寄与



**T-Rook**  
仮設構造物内で仮設機材の運搬を行うロボット

足場を組み上げる際、その作業の7割程を占めるのが、部材の運搬です。下層から上層へ、階層の端から端へと運搬が必要となる中、運搬における効率化を図ることができます。

建築から土木まで、施工性の高い仮設機材をラインナップ



**YT ロックシステム**  
安全性・作業性にすぐれたシステム足場

法面足場工事ももちろん、建築・土木工事まで。安全性・施工性を追求したシステム足場。支保工としても活用可能。



**リフトクライマー**  
自動昇降式足場

建築物の側面を自動で昇降するエレベーター式の足場。下層から足場を組み上げる必要がなく、作業効率を大幅に改善。維持修繕工事の際に使用される。



**Spider Panel**  
進化型パネル式吊り棚足場

開閉床採用により、すき間・段差のないフラットな作業床を実現。仮設パネル上で全ての作業が行える、安全性と作業性を向上させたパネル式吊り棚足場。

しかし、Iqシステム以外にも、顧客や業界の課題解決に寄与する、多くの製品を展開しています。

足場の組立作業の大半を占めるのは、足場の運搬です。

下から上へ、右から左へ、運んでは組立、運んでは組立の繰り返しです。

当社が開発したティールークは足場の運搬を行うロボットです。

ロボットが足場の現場における足場の運搬を行うことで、人的な負担を失くし、リソースが最低限で済むだけでなく、

工事の進捗をスムーズにします。

本日、全ての製品は紹介しきれませんが、

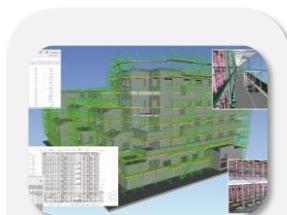
施工性、生産性に優れた多くの製品をラインナップしております。

# Takamiya Solution

## 仮設機材利用フロー

- 1 **設計**  
仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。  
維持修繕工事の際には躯体情報の読み取り等も実施。
- 2 **調達**  
仮設設計を基に必要な仮設機材を調達。  
顧客ごとに調達方法は様々。
- 3 **運搬**  
仮設機材を利用する工事現場へ運搬。  
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。
- 4 **管理**  
仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、  
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。
- 5 **施工**  
仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。  
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

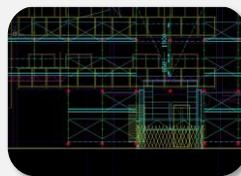
## 躯体情報の読み取りから、BIMCIMなど多様なソリューションにより顧客リソースの消耗を低減



BIM・CIM

### 手戻りによる無駄なコストを削減、 計画通りの工期を実現

仮設工事で重要となる「おさまり」「部材数量」「工程管理」などに関する情報を3Dモデルや各種データによって可視化。TAKAMIYA コマンドにより、範囲選択だけで必要部材の数量を算出。



Rabot  
仮設図面自動作成ツール

### 外注していた作図の内製化を実現

今まで時間がかかっていた平面割付や寸法などの作図も簡単にになり、大幅なスピードアップが可能。専門知識が無くても、操作方法を覚えることで複雑な作業もミスなくクオリティの高い作図が可能。



3Dレーザースキャナ  
躯体情報を正確に読取

### 躯体データを正確にスキャン

維持修繕工事の際に必要な躯体のデータを読み取り可能。従来は膨大な手間と時間がかかっていた法面なども、スピーディかつ安全に形状計測することが可能に。

ここまでは製品の説明でしたが、  
ここからは足場の利用に伴うサービスを工程順に説明させていただきます。

足場を組み立てる際、設計図を作成する必要があります。  
これまでは、平面の図面を作成し、その図面から必要な足場の量を算出していましたが、  
当社のBIMCIMは、単なる平面図面ではなく、3Dデータに、  
工事における様々な情報をデータとして持たせることができます。  
そのため、工程管理や部材数量などが可視化され、  
工事の進捗をスムーズにすることができます。

また、当社のWebオーダーシステムと連携することで、  
必要な足場数量の算出を自動で行い、そのままオーダーすることができます。  
他にも、図面を半自動で作成するRabot、  
建設物の躯体データを読み取る3Dレーザースキャナなど、  
従来の仮設図面の設計より、必要となるリソースを大幅に削減することができます。

# Takamiya Solution

## 仮設機材利用フロー

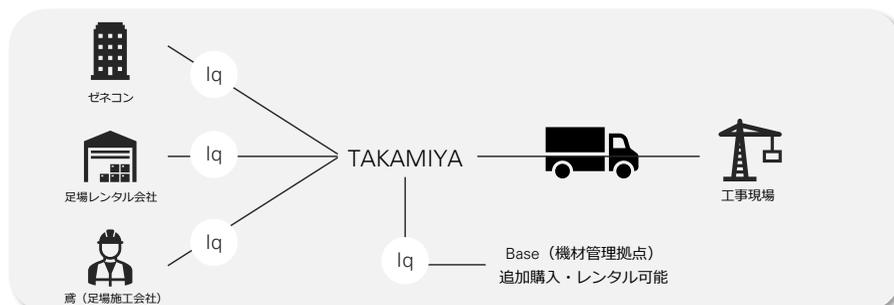
- 1 **設計**  
仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。  
維持修繕工事の際には躯体情報の読み取り等も実施。
- 2 **調達**  
仮設設計を基に必要な仮設機材を調達。  
顧客ごとと調達方法は様々。
- 3 **運搬**  
仮設機材を利用する工事現場へ運搬。  
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。
- 4 **管理**  
仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、  
安全性および品質維持に向けた様々な組みを行う。
- 5 **施工**  
仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。  
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

## 機材管理リソースの負担を追うことなく、保有を実現し、低コストによる調達が可能に

### OPE-MANE

#### Iq System 管理委託サービス

購入もしくは保有しているIqシステムの管理をタカミヤに委託することができるサービス。当社はBaseで自社保有のIqシステムと顧客保有のIqシステムを混合管理し、それぞれが必要な場所で利用可能。顧客は場所を選択して出荷可能。従来の利用方法であるレンタルおよび購入よりも資金、人材の面でリソース負担を軽減。経年劣化分は当社が新品と入れ替えを行うため、安定して利用を実現。



こちらは新たな足場の調達方法です。

当社における足場の提供パターンは3つございます。

レンタル・購入・そして新たな調達方法であるOPE-MANEです。

レンタルは、必要なタイミング、量、場所を選ぶことができる合理的な方法ですが、長期に渡って利用することで、コストがどんどん大きくなってきます。

一方で、購入してしまえば、費用は一時的なものになりますが、管理や整備といった作業が必要になり、置場を新設したり、整備人材を確保したりと、固定費が大きくなってしまいます。

OPE-MANEはレンタルと購入のそれぞれのメリットを兼ね備えた、時代に合った足場の調達方法です。

OPE-MANEの中心となるのはIqシステムで、

顧客が購入したIqシステムの管理を当社が請負い、管理するサービスです。

顧客からすれば、足場の管理リソースを確保する必要がないため、

固定コストが掛からないまま、足場の利用できる仕組みになります。

このOPE-MANEの利便性はこれだけにとどまりません。

# Takamiya Solution

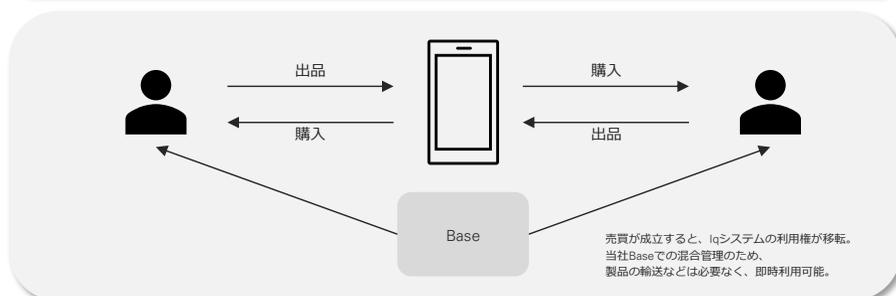
## 仮設機材利用フロー

- 1 **設計**  
仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。  
維持修繕工事の際は躯体情報の読み取り等も実施。
- 2 **調達**  
仮設設計を基に必要な仮設機材を調達。  
顧客ごとに調達方法は様々。
- 3 **運搬**  
仮設機材を利用する工事現場へ運搬。  
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。
- 4 **管理**  
仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供。  
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。
- 5 **施工**  
仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。  
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

## 足場の調達を画面上で用意に行うことができ、柔軟な仮設機材利用を実現

### Iq-Bid Iq System デジタルマーケット

OPE-MANEで運用しているIqシステムをユーザー間で自由に売買することができるデジタルマーケット。徹底した管理と整備に加え、経年劣化分は当社が新品と入れ替えるため、製品の品質は保証。出品価格と購入価格はユーザーが設定可能。余剰分の売却、不足分の購入が容易になり、柔軟な機材調達が可能に。売買成立時の価格が可視化されることでIqシステムの市場価値が可視化。



OPE-MANEで運用している分のIqシステムは、  
Iq-Bidというデジタルマーケット上で自由に売買することができます。  
当社が預かっているIqシステムの管理を徹底しているために、品質と安全性は保たれ、  
足場としての利用価値が下がらないからこそ実現できるサービスです。

お金と同じような考え方です。  
昭和に発行された1万円と令和に発行された1万円、  
価値が保証されているために、どの時代に発行されたかに関わらず、その利用価値は一定です。  
。

顧客は自社保有分のIqシステムをIq-Bidで売却することで、  
購入費用のいくらかを回収することができます。  
需要が高まるタイミングでは、購入価格に近い金額で売却したという実績もございます。  
利用するだけ、利用して、安心して売却できるため、  
足場の調達へのハードル、利用コストを大幅に削減することができます。

# Takamiya Solution

## 仮設機材利用フロー

- 1 **設計**  
仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。  
維持修繕工事の際には躯体情報の読み取り等も実施。
- 2 **調達**  
仮設設計を基に必要な仮設機材を調達。  
顧客ごとに調達方法は様々。
- 3 **運搬**  
仮設機材を利用する工事現場へ運搬。  
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。
- 4 **管理**  
仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供。  
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。
- 5 **施工**  
仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。  
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。

## 仮設機材の調達による、時間や距離の無駄を削減



### 全国機材供給拠点

全国29カ所に設置された機材Base

全国29カ所の機材Baseから機材の調達が可能。  
工事現場に近いBaseから最短距離で輸送でき、  
建設需要が高いエリアに増設予定。

### 最速入出庫

ファストレーン・ミニセンター

事前予約によるファストレーンでの入出庫が可能。使用頻度の高い機材を効率的に配置することで、最大で2時間程度の待機時間を30分程度まで短縮。

### 運送手配

仮設機材の運搬に特化した物流ネットワーク

工事現場内で、仮設機材の積み下ろしを伴うため、専門性の高いスキルが必要となる中、対応可能な車両とドライバーを手配。

そして、OPE-MANEで運用しているIqシステムは、  
ATMのように全国の拠点から引き出して利用していただくことができます。  
大阪で購入いただいたIqシステムを、  
東京のような建設需要が高いエリアで、ご利用いただくことができます。

足場は保有してしまうと、運搬の手間がかかるため、  
事業エリアが限定されるのが普通でしたが、  
OPE-MANEでは、足場を購入した上で、レンタルのように、  
場所を選んで利用することができるため、事業エリアをどんどん拡大していくことができます。

OPE-MANE、そして、Iq-Bidにより、保有と利用の合理化、最大化を進め、  
必要なリソースを最適化することができます。

# Takamiya Solution

## 仮設機材利用フロー

- 1 **設計**  
仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。  
維持修繕工事の際には躯体情報の読み取り等も実施。
- 2 **調達**  
仮設設計を基に必要な仮設機材を調達。  
顧客ごとに調達方法は様々。
- 3 **運搬**  
仮設機材を利用する工事現場へ運搬。  
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。
- 4 **施工**  
仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。  
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施を行う。
- 5 **管理**  
仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、  
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。

## 足場組立工事の請負から、専門の求人サイトの運営、法定教育の実施

### Tobira 専門求人サイト



足場施工業者の求人を無料掲載できるプラットフォーム。  
専門サイトのため、要件が明確となり、認識組詰も防止。  
人手不足を解消に寄与。

### 全国工事ネットワーク 安全衛生協会の

タカミヤ安全衛生協会は円滑な足場組立工事と安全活動を  
推進し、現場での災害事故を防止。全国各地で足場組立工事  
を依頼可能。

### 安全活動 足場作業の災害・事故ゼロを目指す



座学と実習で、足場に関する基礎知識から安全対策の具体的  
な方法を徹底解説。労働安全衛生法第519条の3で義務付け  
られている、特別教育の実施を、当社が開催。

次は足場の組立、施工のフェーズです。

現在、業界では足場の組み立てを行う職人が不足しています。

人材確保が困難な状況で、

仕事はあるが、人手が足りないために、受注ができない。

このような状況下で、鳶会社の倒産件数も増加傾向にあります。

そこで、当社は次世代の職人育成のための足場安全教育の実施、

人材確保に役立つ、無償の求人サイトの開設、

当社の協力会社による施工サービスを提供しています。

当社のソリューションにより、とどこおりの無い、足場工事を実現します。

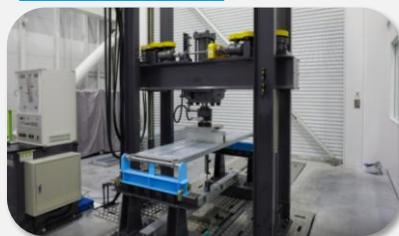
# Takamiya Solution

## 仮設機材利用フロー

- 1 **設計**  
仮設機材の組立に必要な種類と数量を算出。  
維持修繕工事の際には躯体情報の読み取り等も実施。
- 2 **調達**  
仮設設計を基に必要な仮設機材を調達。  
顧客ごとに調達方法は様々。
- 3 **運搬**  
仮設機材を利用する工事現場へ運搬。  
基本的に車両手配や運送費は顧客負担。
- 4 **施工**  
仮設設計に基づき、現場で仮設機材を組み立てる。  
組立に必要な資格獲得に向けた講義の実施も行う。
- 5 **管理**  
仮設機材の整備および管理を行う。正確な仮設機材提供、  
安全性および品質維持に向けた様々な取り組みを行う。

データ管理により機材管理における不確実性を撲滅。経年化による耐用年数の基準の設定は業界初の取り組み

### 仮設機材の耐用基準の設定 実大試験機による強度試験



実大試験機で仮設機材の経年品の強度試験を実施。廃棄の基準となる数値の根拠がなかった仮設機材に、業界初となる耐用年数を設定。安全の可視化を通して、お客様に安全な仮設機材を提供するために実証実験を実施。「作って終わり、売って終わり」だった仮設業界を「安全の可視化」をキーワードに業界の慣習を変革し、より安全で信頼性の高い仮設機材の提供を実現し、業界全体の安全基準の向上に貢献。

### データによる機材管理 トラックスケールと定点カメラ



仮設機材を入庫する際に、必要な数と種類を正確に識別するため、トラックスケールによる重量データの蓄積と、定点カメラによる識別を行い、仮設機材提供および返却の正確性を格段に向上。工事現場で数が足りない、提供した分が返却されていないなどのヒューマンエラーを撲滅

続きまして、足場の管理です。

種類・数の多さ、そして重たさ、目には見えにくい品質など、  
足場の管理は複雑です。

従来はこれらの管理のほとんどは人手によって行われていました。

しかし、当社は足場の管理にデータを活用しています。

カメラによる映像と画像のデータ、トラックスケールによる重量データにより、  
数値的根拠に基づく足場管理をしています。

加えて、業界初となる、足場の経年化データを得るために、強度試験を実施しています。  
鋼製の足場でも利用し続けると、その耐久性に影響が出てきます。

しかし、これまで、業界において、それらの廃棄基準や安全基準は、明確に定義されていません。

当社が実施する試験により、安全性に関する基準を明確にすることで、

安全が保障された足場を提供し続け、職人のオフィス環境を守り、労働災害の撲滅を推進します。

## Takamiya Solution

ソリューションをWebオーダーシステムOPERAに集約し、プラットフォームを構築。OPERAがソリューション提供のポータルに。

WEBオーダーシステム [オペラ]

# OPERA

アカウントを申し込むだけで、  
24時間いつでも注文可能。



### OPERA プラットフォームポータル

業界課題を解決するソリューションをデジタルポータルに集約、スマートフォンやパソコンからソリューションへアクセスすることができ、利用情報をデジタルで一元管理。各ソリューションの連携で利便性が格段に向上。



様々なソリューションを開発しておりますが、それらを集約するのが、ポータルとなるOPERAです。

これまでにご説明したソリューションを、OPERAに集約することで、場所や時間を問わず、Web上で、より便利にサービスをご利用いただける環境を構築します。利用者においては、データの管理が簡単になり、DXにも寄与します。

## Takamiya Lab.

業界課題解決へ向けた、新たなソリューションの試験を行い、実感することができるタカミヤ初の研究開発拠点



### Takamiya Lab.

Takamiya SolutionのR&D拠点

製品の開発、サービスの検証など、業界課題を解決するソリューションの研究開発を行う拠点。足場の経年化データを蓄積させ、足場の安全基準を可視化を検証。足場製品とバーチャルを組み合わせた安全教育の実施、入庫時間の短縮など、研究を実施。

### ソリューション研究開発

- ・仮設機材経年化強度試験
- ・足場安全活動
- ・入庫データ蓄積
- ・AI活用による自動運送手配
- ・製品開発
- ・最速入庫試験
- ・仮設機材整備自動化試験
- ・積載シミュレーションの自動化試験

Page 22

こちらは、プラットフォームの構築及び、ソリューションの開発において、最重要となる研究開発拠点「Takamiya Lab.」です。

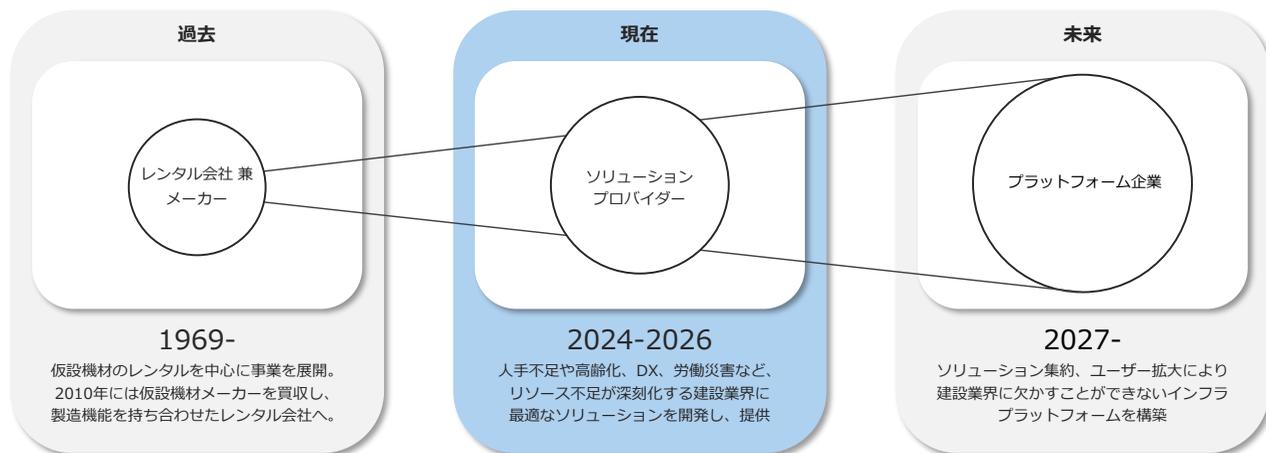
ソリューションとなる製品サービスの試験研究を行い、業界課題へ最適なアプローチを検証します。

先程ご説明いたしました、経年化強度の試験や足場運搬ロボットの開発等は、この施設で行っております。

当施設に顧客や業界の課題が集約され、ソリューションをTakamiya Lab.を中心に業界の姿を変えていきます。

## VISION

仮設機材レンタル会社から建設業界の課題を解決するソリューションを開発し、業界に欠かすことのできないプラットフォーム企業へ



こちらは当社が描くビジョンです。

創業からレンタルビジネスを中心に事業を展開してきましたが、  
 現在、変革期を迎えています。

これからは、ソリューションを提供し、  
 プラットフォームによる事業展開へとシフトしていきます。  
 プラットフォームが業界の課題を解決していくことで、  
 業界になくてはならないインフラと成長していきます。

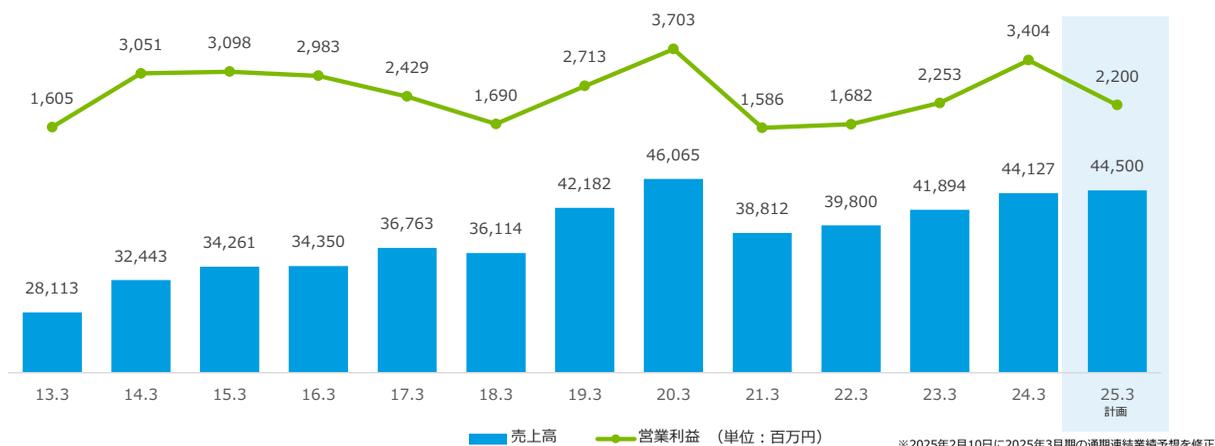
タカミヤが、プラットフォームが、業界の課題を解決し、未来の社会を支えます。  
 以上が当社事業の説明になります。

## 業績ハイライト

続きまして、業績ハイライトについてをお伝えいたします。

## 業績ハイライト

コロナ禍で一時的に業績が落ち込むも、右肩上がりに回復、進行期は工事遅れによって一時的に収益減少の見込み



コロナ禍で工事の動きが停滞したこともあり、一時的に業績が落ち込んではいませんが、Iqシステムの開発、プラットフォームにおけるソリューション提供を背景に、業績は右肩上がりに業績を伸ばしています。

進行年度におきましては、当社ソリューションの利用が予定されていた工事が、人手不足などの影響で延期された中、プラットフォームソリューションの拡充や人材への投資を継続したことで、一時的に収益が減少する見込みとなっております。

来年度以降も投資は継続する中、コストは大きくなりますが、ソリューションの拡充により、確実に収益を上げていきます。

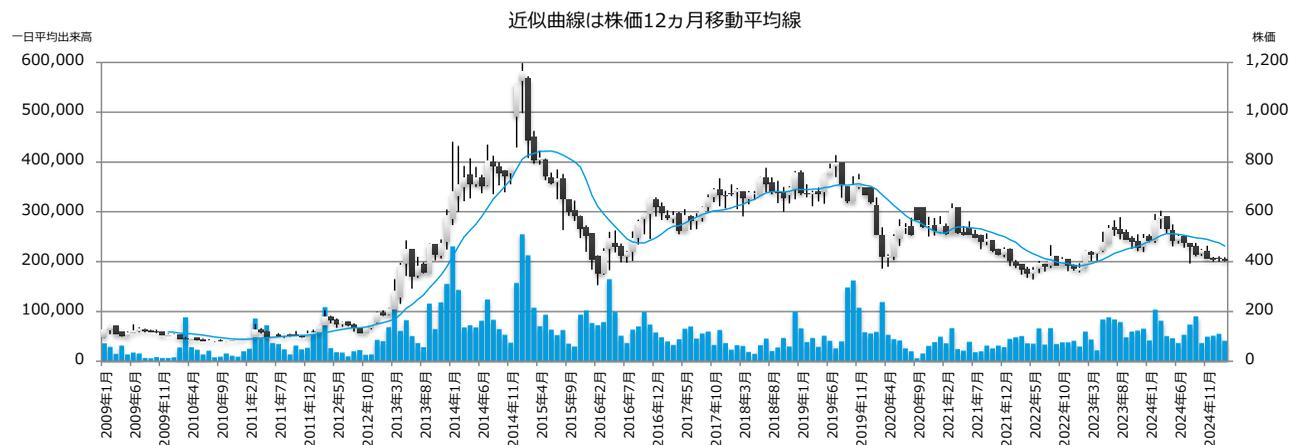
## 株式情報

最後に株式情報をお伝えいたします。

# 株式情報

## 株価推移

2月末時点株価：405円、2025年1月4日-2月28日の1日平均出来高 47,989株



2月末時点での株価は405円となっております。

2025年に入ってから直近2カ月の平均出来高は、およそ48,000株となっております。

# 株式情報

## 配当金

累進配当を継続、配当性向35%以上の維持を目指し、業績や利益水準に応じて配当水準の向上を図る

	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期 (実績及び予想) ※
配当金	14円	14円	14円	14円	16円
内訳) 1Q	-	-	-	-	-
2Q	6.0円	6.0円	6.0円	6.0円	6.0円 (実績)
3Q	-	-	-	-	-
4Q	8.0円	8.0円	8.0円	8.0円	10.0円 (予想)
配当金額総額	651百万円	652百万円	652百万円	652百万円	-
配当性向	76.0%	67.5%	44.6%	34.5%	-
自社株買い	0百万円	0百万円	0百万円	0百万円	-
総還元性向	76.0%	67.5%	44.6%	34.5%	-
自己資本配当率 (配当性向×ROE)	3.6%	3.5%	3.3%	3.1%	-
ROE	4.7%	5.2%	7.6%	9.1%	-

※2024年11月8日に2025年3月期における配当予想を修正

こちらは配当金になります。

進行期は、2円の記念配当を実施し、年間配当16円を計画しております。

累進配当の継続により、来年度以降も、  
水準を落とすことなく配当を実施してまいります。

当社のIRセミナーは以上となります。

ご清聴ありがとうございました。

# Takamiya Platform DX

Permanent Partner Relationship, realized with Digital Transformation